



決算説明会資料

2026年3月期決算および 2027年3月期計画について

2026年5月

株式会社SRAホールディングス
代表取締役社長 大熊 克美





1

SRAグループについて

2

2026年3月期 決算概要

3

2027年3月期 計画

4

株主還元



1

SRAグループについて

1. グループの強み



技術先進性 Advanced Technology

デジタルビジネスの成功を先進技術で実現
先進技術と基礎技術を組み合わせ新しい「価値」を提供

デジタルトランスフォーメーションを支えるAI、クラウド、セキュリティ、さらに、これらを含む総合技術であるIoT—これらの先進技術と基礎技術を組み合わせ、様々な業界のリーディングカンパニーであるお客様に対し、デジタルビジネスを成功に導く、新しい「価値」を提供いたします。

グローバル・リーチ Global Reach

世界の有望市場で拡充するSRAネットワーク
グローバル展開を図るお客様に国際競争力強化に直結するサービスを提供

海外拠点の実績、ノウハウとグローバル・リーチを活かし、海外ビジネスを推進している日系企業・現地企業のお客様はもとより、これから海外市場に進出されるお客様に対しても国際競争力強化に直結する各種サービスを提供しています。また、IT技術の進展と先々のニーズをいち早く捉え、市場優位性のある技術やサービスを有する海外企業と業務・資本提携を行なうなど、国内外のお客様へのサービス拡充も図っています。

優良顧客基盤 Customer Success

技術力と業務知識を活かしたシステム構築、運用サービス
独立系のニュートラルな立場でお客様のIT戦略を成功に導く最適なソリューションを提供

企業や大学において、成長戦略の中枢を担うIT。SRAは、先進技術力と各業界における業務知識、実績、ノウハウを活かしたシステムの構築により、IT戦略を成功に導きます。また、クラウドコンピューティングの普及に伴いますますます高まるセキュリティとコンプライアンスに対する要求に対し、高い技術力と長年にわたる経験、信頼に基づく運用サービスも提供しています。

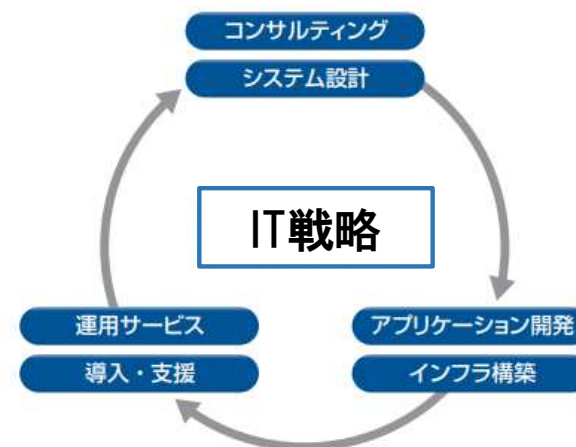
2. 事業内容



デジタルトランスフォーメーションを支えるAI、クラウド、ビッグデータ/アナリティクス、セキュリティなどの先進技術と、当社グループが長年培ってきた基礎技術を組み合わせ、各業界のリーディングカンパニーであるお客様に対し、独立系のニュートラルな立場でデジタルビジネスを成功に導く、新しい「価値」を提供しています。

また、グローバル化に伴うビジネス/システムの拡充についても欧米・アジアの各拠点の優位性を活かしたサービスを展開しています。

さらに、クラウドコンピューティングの普及に伴いますます高まるセキュリティとコンプライアンスに対する要求に対し、高い技術力と長年にわたる経験、信頼に基づく運用サービスも提供しています。



開発事業

- 金融ITサービス
- 組込ITサービス
- 文教ITサービス
- 業務システム開発
- コンサルティング
- アナリティクス

運用・構築事業

- アウトソーシングサービス
(構築・リモート監視等)
- インフラ運用サービス
(ネットワーク、サーバ等)
- システム運用サービス
- インフラ構築
(ネットワーク、サーバ等)

販売事業

- ハードウェア
- 内部統制/セキュリティ
- AI
- オープンソースソフトウェア
- 文教
- 開発支援、システム品質
- ヘルスケア

3. 事業セグメント



開発事業

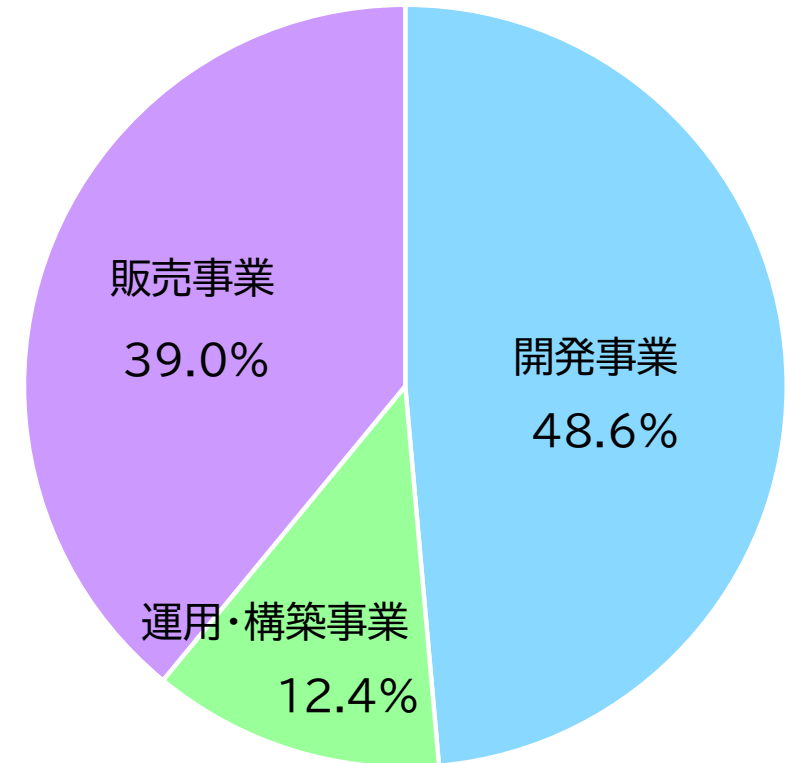
SRAの強みである「先進技術力」と長年の実績に基づく豊富な業務知識・ノウハウを活かし、金融・製造／組込・文教など幅広い分野のお客様に対し、IT戦略を成功に導くシステムを提供しています。

運用・構築事業

強固なセキュリティや安定稼動が必須とされる大企業・中堅企業や先進技術への関心が高い国公立大学・私立大学に対し、システム運用サービスおよびインフラ構築・運用サービスを提供しています。

販売事業

実績豊富なサーバ等のハードウェア製品、SRAの研究技術に基づく自社IP製品、海外・国内の先進的製品を販売するとともに、付加価値の高いソリューションとしても提供しています。



セグメント別売上高構成比
(2026年3月期)

4. ビジネスフィールド



製造/組込IT (ビジネスユース)

- FA機器、工作機械、自動倉庫
- 放送局向け機器
- デジタルシネマ
- 映像配信システム
- カラオケシステム
- POSシステム
- 医療用検査機器・測定機器

文教IT

- 総合文教ソリューション
[UniVision]
- 学務・入試・会計システム
- 通信教育
- 就職システム
- 学生ポートフォリオ
- 医療・看護系学生ポートフォリオ
- 大学情報データベースシステム
- キャンパスネット
インフラ構築・運用サービス

金融IT

- 都銀・地銀・信託：
勘定系・情報系・市場系システム
- 証券会社：資産運用系システム、
オンライントレードシステム
- 生損保：基幹・業務系システム

ヘルスケア

- デジタルヘルスサービス
[HEALTHPLAYER]

企業・業務IT

- 物流システム
- 会計システム
- 生産管理システム
- 販売・在庫管理システム
- 顧客管理システム
- 人事・基幹システム
(電力・ガス・鉄道・航空等)
- インフラ構築・運用
サービス

製造/組込IT (パーソナルユース)

- デジタル家電 (TV/レコーダー、オーディオ機器、
パソコン、高性能ゲーム機器)
- モバイル (スマートフォン、タブレット)
- 複合機、プリンター
- カーナビ、車載システム
- ホームセキュリティ
- ホームエネルギー管理システム

ハードウェア

- UNIX、Linuxサーバ製品 他

製品・ソリューション

- クラウド対応運用管理 [Cavirin]
- オープンソースDB [PowerGres]
- メールアーカイブ [MailDepot]
- テスト自動化 [TestDepot] [Testablish]
- ワイヤレス関連製品 (Proxim) 他



2

2026年3月期 決算概要

1. 事業環境の振り返り



●環境認識

・グローバル

米中摩擦やウクライナ問題の長期化に加え、中東情勢の緊迫化など地政学リスクの高まりが続く

・国内

国内景気は緩やかながらも回復基調が継続

・情報サービス産業

引き続き業務効率化やビジネス改革等の投資需要は堅調に推移

・当社グループのお客さま

製造業の一部では、中国の景気停滞や米国の通商政策の影響を受けているお客様も存在

金融業は、金利上昇により収益力が向上し投資余力が拡大、既存システムのモダナイゼーション需要も潤沢

2. 業績(前年比)



- 売上高:増収
- 営業利益:増益
- 粗利益:増益
- 経常利益:増益
(為替差益 722百万円)
- 販管费率:横ばい
- 当期純利益:増益

単位:百万円

| | 2026年3月期 実績 | 2025年3月期 実績 | 差異 (増減率) |
|-------|----------------|----------------|-----------------|
| 売上高 | 53,279 | 51,617 | +1,662 (+3.2%) |
| 粗利益 | 13,743 | 13,179 | +564 (+4.3%) |
| 粗利益率 | 25.8% | 25.5% | +0.3% |
| 販管費 | 5,498 | 5,238 | +260 (+5.0%) |
| 販管费率 | 10.3% | 10.1% | +0.2% |
| 営業利益 | 8,244 | 7,940 | +304 (+3.8%) |
| 営業利益率 | 15.5% | 15.4% | +0.1% |
| 経常利益 | 9,500 | 8,126 | +1,373 (+16.9%) |
| 経常利益率 | 17.8% | 15.7% | +2.1% |
| 当期純利益 | 5,601 | 3,377 | +2,223 (+65.8%) |

2. 業績(計画比)

- 売上高・営業利益は概ね期初予想水準、また、経常利益・当期純利益は期初計画を超過達成
- 売上高、粗利益、営業利益、経常利益、当期純利益の全てで過去最高を更新(売上高…5期連続、粗利益…5期連続、営業利益…7期連続)

単位:百万円

| | 2026年3月期 | | | |
|------------|----------|-----------------------|--------|--------|
| | 実績 | 通期業績予想 (2025年5月発表) | 差異 | (達成率) |
| 売上高 | 53,279 | 53,500 | △220 | △0.4% |
| 営業利益 | 8,244 | 8,300 | △55 | △0.7% |
| 経常利益 | 9,500 | 8,150 | +1,350 | +16.6% |
| 当期純利益 | 5,601 | 4,900 | +701 | +14.3% |
| 1株当たり当期純利益 | 443.34 | 387.85 | +55.49 | +14.3% |

3. 収益分析

- **売上高** 「増収」 53,279百万円 +1,662百万円(+3.2%)
〔主な要因〕
 - ・「開発」、「運用・構築」、「販売」の全てのセグメントで増収
 - ・特にAITにおける「販売セグメント」が好調
- **粗利益** 「増益」 13,743百万円 +564百万円(+4.3%)
粗利益率 25.5%→25.8%
〔主な要因〕
 - ・クラウドビジネスをはじめとしたより収益性の高い事業が進展
 - ・開発セグメントにおいて生産性向上や単価改善等が寄与
- **営業利益** 「増益」 8,244百万円 +304百万円(+3.8%)
営業利益率: 15.4%→15.5%
〔主な要因〕
 - ・アカウントマネージャー常駐やWebツール活用等で営業活動を効率化
 - ・コストの適正化を推進する一方で、能力・スキルに応じた報酬制度の充実など、人材投資を強化

3. 収益分析

- 経常利益 「増益」 9,500百万円 +1,373百万円(+16.9%)
経常利益率: 15.7%→17.8%

〔主な要因〕

- ・営業利益の増加、為替差益の計上
〈前期〉為替差損 171百万円
〈今期〉為替差益 722百万円

- 当期純利益 「増益」 5,601百万円 +2,223百万円(+65.8%)

〔主な要因〕

- ・貸倒引当金繰入額、投資有価証券評価損の減少
 - 貸倒引当金繰入額
〈前期〉1,587百万円
〈今期〉 223百万円
 - 投資有価証券評価損
〈前期〉210百万円
〈今期〉 無し

4. 売上高/セグメント別(前年比)

- 開発事業:増加・・・金融業向けが増加
- 運用・構築事業:増加・・・金融業及び製造業向けが増加
- 販売事業:増加・・・AITで金融業向け大口案件もあり大幅に増加

(「販売事業」は大きく増加したが、「開発事業」は製造業の一部で中国の景気停滞等の影響を受けたお客さま等も存在、相対的に増加率は低め)

単位:百万円

| | 2026年3月期 実績 | 2025年3月期 実績 | 差異 (増減率) |
|---------|----------------|----------------|----------------|
| 開発事業 | 25,889 | 25,601 | +288 (+1.1%) |
| 運用・構築事業 | 6,594 | 6,444 | +149 (+2.3%) |
| 販売事業 | 20,795 | 19,571 | +1,224 (+6.3%) |
| 合計 | 53,279 | 51,617 | +1,662 (+3.2%) |

4. 売上高(セグメント別／顧客業種別)

<開発事業、運用・構築事業>

開発事業は、製造業と金融業の比重が大きく、特に金融業向けで増加。
運用・構築事業では、製造業と金融業で増加

単位：百万円

| | 開発事業 | | | 運用・構築事業 | | |
|---------|----------|----------|------|----------|----------|------|
| | 2026年3月期 | 2025年3月期 | 増減 | 2026年3月期 | 2025年3月期 | 増減 |
| 製造業 | 9,947 | 9,941 | +5 | ↑ 1,493 | 1,448 | +45 |
| 通信 | 708 | 499 | +208 | 802 | 1,025 | △222 |
| 電力・ガス | 1,560 | 1,336 | +224 | 4 | 13 | △8 |
| 金融 | ↑ 7,292 | 7,154 | +137 | ↑ 1,346 | 1,230 | +116 |
| 生損保 | 376 | 425 | △49 | 222 | 126 | +96 |
| 流通 | 867 | 989 | △122 | 72 | 42 | +29 |
| 大学等 | 838 | 991 | △152 | 1,080 | 1,116 | △36 |
| ハードメーカー | 132 | 232 | △99 | 25 | 94 | △68 |
| 情報サービス | 1,562 | 1,276 | +286 | 711 | 910 | △199 |
| サービス他 | 2,657 | 2,753 | △96 | 830 | 436 | +393 |
| 合計 | 25,889 | 25,601 | +288 | 6,594 | 6,444 | +149 |

4. 売上高(セグメント別／顧客業種別)

<販売事業>

販売事業の大宗はAITが占める。なかでも金融業や病院等の比重が大きく、2025年度は金融業で超大型案件もあり、大きく増加

| 業種別 (百万円) | | 2026年3月期 | 2025年3月期 | 増減 |
|-----------|---------|----------|----------|--------|
| AIT | 製造業 | 657 | 1,029 | △353 |
| | 通信 | 1 | 1 | △0 |
| | 電力・ガス | 43 | 166 | △122 |
| | 金融 | ↑ 6,996 | 4,355 | +2,451 |
| | 生損保 | 466 | 767 | △278 |
| | 流通 | 1,597 | 1,985 | △478 |
| | 大学等 | 302 | 144 | +168 |
| | ハードメーカー | 174 | 195 | △21 |
| | 情報サービス | 1,048 | 830 | +276 |
| | 医療(病院等) | 4,259 | 5,780 | △1,521 |
| | サービス他 | ↑ 2,267 | 1,545 | +722 |
| | 合計 | 17,810 | 16,796 | +1,014 |
| | SRA | 1,726 | 1,674 | +51 |
| その他子会社 | 1,259 | 1,101 | +159 | |
| 合計 | 20,795 | 19,571 | +1,224 | |

参考：グループ会社実績

AIT、ソフトウェア・サイエンス、SRA西日本、SRA OSSの各社については、いずれも売上高過去最高を更新。SRA東北は前年大幅売上増加の反動で前年比減少

単位：百万円

| | | 2026年3月期 実績 | 2025年3月期 実績 | 増減 |
|---------------------|------|----------------|----------------|--------|
| (株)SRA | 売上高 | 23,363 | 22,638 | +725 |
| | 経常利益 | 6,738 | 5,763 | +975 |
| (株)AIT | 売上高 | 20,078 | 19,224 | +853 |
| | 経常利益 | 2,300 | 2,129 | +171 |
| (株)ソフトウェア・サイエンス | 売上高 | 4,425 | 4,218 | +207 |
| | 経常利益 | 862 | 769 | +92 |
| (株)SRA西日本 | 売上高 | 1,728 | 1,647 | +80 |
| | 経常利益 | 369 | 337 | +32 |
| (株)SRA東北 | 売上高 | 1,631 | 1,848 | △216 |
| | 経常利益 | 320 | 393 | △73 |
| (株)SRA OSS | 売上高 | 1,150 | 1,041 | +108 |
| | 経常利益 | 563 | 542 | +20 |
| SRAアメリカ SRAヨーロッパ | 売上高 | 1,507 | 1,581 | △73 |
| | 経常利益 | 347 | 333 | +13 |
| その他の子会社 | 売上高 | 1,797 | 1,569 | +228 |
| | 経常利益 | △641 | △890 | +248 |
| 合計 | 売上高 | 55,683 | 53,769 | +1,913 |
| | 経常利益 | 10,859 | 9,379 | +1,480 |

※合計は単純合算(連結相殺前の数値)



3

2027年3月期 計画

1. 2026年度計画に向けて



● 環境認識

- 為替や株式等の金融資本市場の不安定、原油価格の高騰や更なる物価や資材価格の上昇が、個人消費や企業投資へ与える影響について、これまで以上に注視が必要な状況
- 特に、製造業については、これまでの原材料価格の上昇に加え、中東情勢の悪化による原油価格高騰が投資に与える影響をよく見極めていく必要性
- 一方、金融業は、金利上昇により収益力が向上し投資余力が拡大、既存システムのモダナイゼーション需要が潤沢に存在しているほか、業務効率化や顧客利便性向上案件などが豊富

2. 2027年3月期 計画

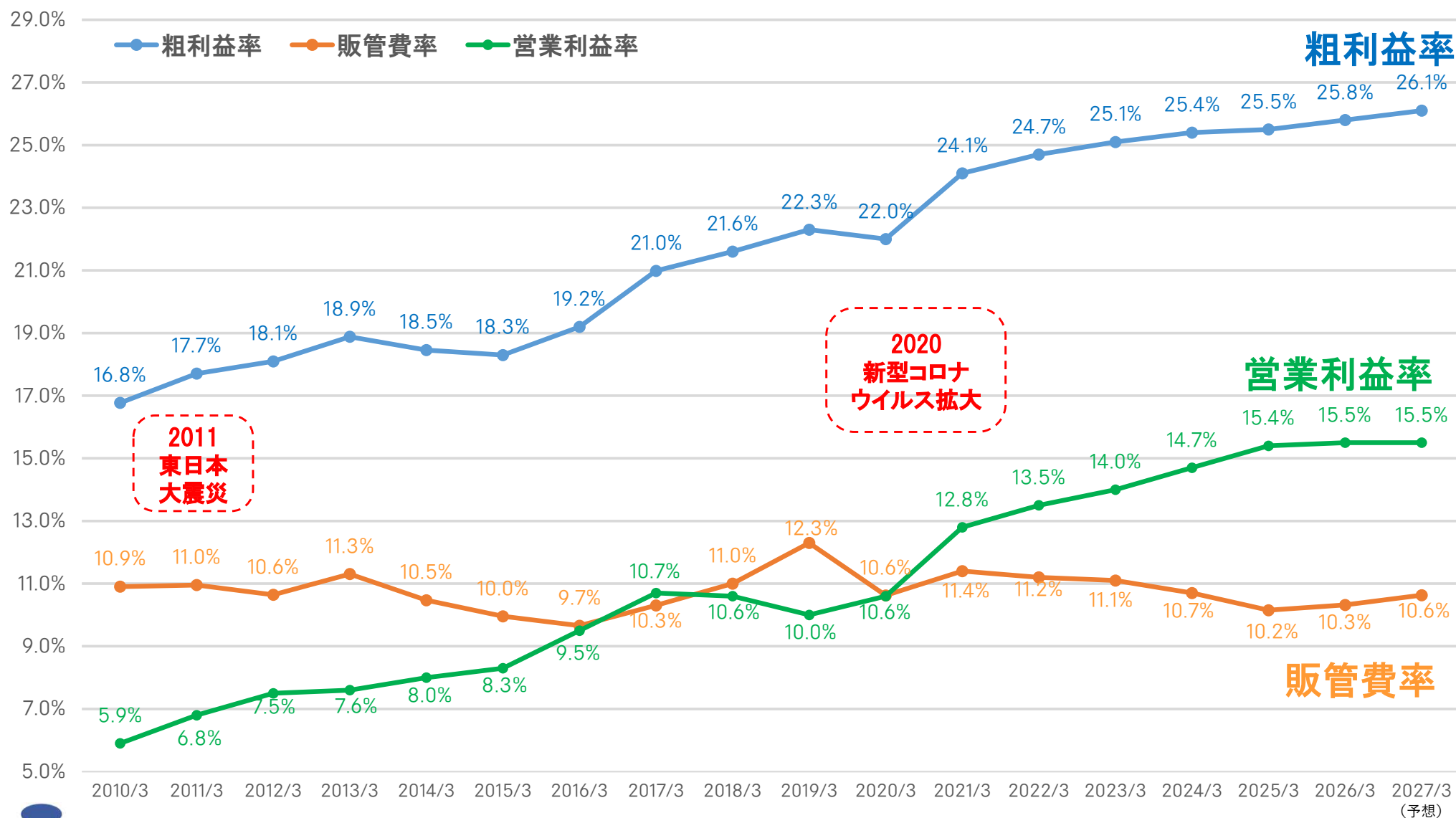
外部環境変化に臨機応変に対応しつつ、引き続き売上・利益の成長を目指す。経常利益および当期純利益については、前年度比減少予想であるが、前年度は722百万円の為替差益を計上したのに対し、今年度予想では、為替差損益の発生を見込んでいないことによるものであり、為替要因を除けば、増収増益計画

| | 2027年3月期 計画 | 2026年3月期 実績 | 増減 |
|---------------------|----------------|----------------|---------|
| 売上高 | 55,500 | 53,279 | +2,220 |
| 粗利益 | 14,500 | 13,743 | +756 |
| 粗利益率 | 26.1% | 25.8% | +0.3% |
| 販売管理費 | 5,900 | 5,498 | +401 |
| 販管费率 | 10.6% | 10.3% | +0.3% |
| 営業利益 | 8,600 | 8,244 | +355 |
| 営業利益率 | 15.5% | 15.5% | +0.0% |
| 経常利益 | 9,000 | 9,500 | △500 |
| 経常利益率 | 16.2% | 17.8% | △1.6% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 5,500 | 5,601 | △101 |
| 1株当たり当期純利益 | 435.34円 | 443.34円 | △8.00円 |
| 1株当たり配当金 | 220.00円 | 200.00円 | +20.00円 |

※2027年3月期計画 販売管理費には「投資」を含む

参考：粗利益率、販管費率、営業利益率の推移(連結・通期)

高収益ビジネスへのシフト、生産性等により、継続的に粗利益率は向上。
一方、販管費を確りコントロールすることで、営業利益率も右肩上がりに推移



3. 計画/セグメント別 売上高



単位:百万円

| | 2027年3月期 計画 | 2026年3月期 実績 | 差異 (増減率) |
|---------|----------------|----------------|----------------|
| 開発事業 | 26,930 | 25,889 | +1,041 (+4.0%) |
| 運用・構築事業 | 7,360 | 6,594 | +766 (+11.6%) |
| 販売事業 | 21,210 | 20,795 | +415 (+2.0%) |
| 合計 | 55,500 | 53,279 | +2,221 (+4.2%) |

3. 計画/主要グループ会社別 売上高



単位:百万円

| | 2027年3月期 計画 | 2026年3月期 実績 | 差異 |
|--------|----------------|----------------|--------|
| (株)SRA | 25,000 | 23,363 | +1,637 |
| (株)AIT | 20,100 | 20,078 | +22 |
| 国内子会社 | 9,300 | 8,934 | +366 |
| 海外子会社 | 2,900 | 2,851 | +49 |

※連結相殺前の数値

4. 今後の取り組み/2026年度グループ経営方針



◇基本方針

- 既存事業の持続的成長と生産性向上による事業基盤安定化
- 自社IPを中心とした製品型ビジネスモデルをはじめとする高収益の新しいビジネスモデルの創出
- 受託型ビジネスから価値の提供を行う提案型ビジネスへのシフト
- グループ内連携強化によるシナジー発揮

4. 今後の取り組み/2026年度グループ経営方針



1. 既存顧客との取引拡大

(1) カスタマーサクセス

- ・顧客のビジネスの成長・成功に貢献

(2) 顧客をグループ内で連携することでシナジー発揮

- ・「グループシナジー推進本部」を核にグループ連携・シナジー発揮を加速

2. ビジネスモデルの変革

(1) コンサルティング業務の強化

- ・Oracle ERP Cloud、Salesforce等ビジネス強化、
コンサルティングサービス推進

(2) クラウドビジネスの強化

- ・マルチクラウドやハイブリッドクラウド対応充実と自社IPのSaaS化、
DevSecOpsの実践

(3) ソリューションビジネスの推進

- ・セキュリティサービス、ローコスト開発、新UniVisionの販売開始

4. 今後の取り組み/2026年度グループ経営方針



3. AI活用

- (1) 自社IPサービス(新UniVision、Cavirin、WIS等)への導入
- (2) AIを活用した顧客向けサービス(AI365、SPSS、リバースエンジニアリング等)の提供
- (3) 既存業務の生産性向上に向けたAIの更なる活用
- (4) AI活用人材の育成

4. 自社IP×グローバルビジネスの推進

- (1) 自社IPの商品力向上と販売力強化
- (2) 新規自社IPビジネスの開発
- (3) オープンソースソフトウェア(OSS)への取り組み
- (4) 東南アジア市場の開拓によるグローバルビジネスの推進

4. 今後の取り組み/SRAグループにおけるAI活用

「AI」×「SRAらしさ」＝「新たな価値」

急速に進展するAIに、「オープンソース」や「現場での知見」といった「SRAらしさ」を掛け合わせることで、お客さまにとって真の付加価値を提供していく

⇒AIに駆逐されることなく、AIを更なる成長のドライバーとして積極的に取り込む

AIを活用した点検ソリューション ^{ウィズ} WIS (SRA プロダクト・サービス事業部)

- カメラによる画像診断によって得られた点検作業の正誤判断結果や、その他製造工程で必要な情報を、AIを活用しつつ、作業者が装着するスマートグラスの画面に映し出す
→ 作業の正確性や効率性を大幅に改善
- 国内大手自動車メーカーでも実証実験(PoC)進行中
- 職業訓練校での作業の適否表示やアドバイスに実利用

点検管理ソリューション

「製造」「点検」「ピッキング」などの作業支援、「機器」「装置」などの稼働状況、「指示」「異常解消」などのコミュニケーションの課題を解決するスマートグラスを活用した点検管理ソリューション



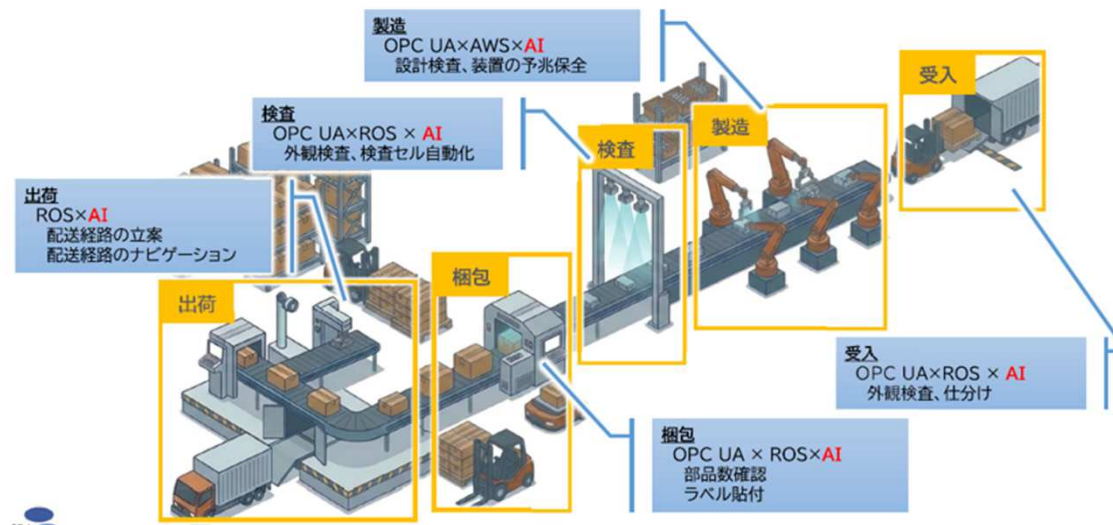
Wearable Inspection Service

- 1 点検デジタル化
Wearable Inspection Service
点検作業の効率化を目指し、スマートグラスへの点検項目の表示と、スマホアプリとWEBによる点検項目の管理。
- 2 作業品質向上
QR Match Viewer
ピッキングの精度向上を目指し、カメラで読み取ったQRコードをスマホアプリで照合し、正誤結果をスマートグラスに表示。
- 3 コミュニケーション支援
Silent Instructor Viewer
騒がしい環境での確実な情報伝達を目指し、作業指示者のメッセージをチャットアプリを介してスマートグラスに表示。
- 4 生産性向上
Fault Alert Viewer
生産性向上のため設備や機械の停止時間を短くすることを目指し、機械の状態をリアルタイムにスマートグラスに表示。

4. 今後の取り組み/SRAグループにおけるAI活用

FA領域におけるAIの活用（SRA 産業第1事業部）

- IT(AWS、アプリ開発)やOT(OPC UAやQt等の制御・運用技術)といった、SRAが強みを持つ技術にAIを掛け合わせる
- 受入⇒製造⇒検査⇒梱包⇒出荷といったFA(Factory Automation)領域において、ダウンタイムの最小化メンテナンスコスト削減、ミス低減、搬送効率の向上を実現



大手金融機関における開発工程へのAIの活用（SRA 金融事業部）

- AIDE(Claude系)を利用するほか、^{クウェン}Qwen、Mistralなど、SRAが強みを持つ「オープンソースモデル」を活用
- プログラムマージの際もAIでレビューを実施
- 大規模開発案件における、生産性向上と品質維持、コスト削減を実現



4. 今後の取り組み/SRAグループにおけるAI活用

大型リプレース案件におけるAIの活用（SRA 産業第2事業部）

- ECサイト構築案件を通じ、各フェーズでAI活用を実施
- 「開発作業支援」「プロジェクト推進・品質向上支援」の2つの観点から活用を推進
- 要件定義ドキュメントのドラフト生成、自然言語記述からのプロトタイプコード生成、自動レビュー(Lint + LLMチェック)、単体テスト・UIテストの自動生成など

現行システム画面機能仕様書
Excel

現行システム画面機能仕様書
MarkDown

次期システム画面設計仕様書の見直し

次期システム画面設計書レビュー

microsoft/
markdown

Python tool for converting files and office documents to Markdown.

19 6 Contributors 11 1 Used by 1 0k Stars 258 Forks



GitHub Copilot



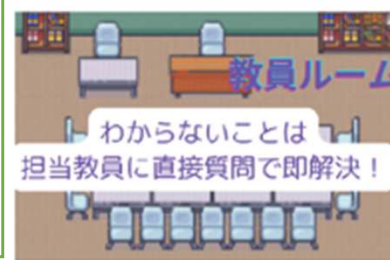
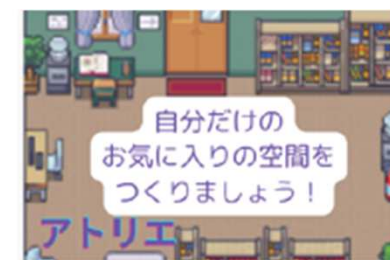
VitePress
Vite & Vue Powered
Static Site Generator

hypothes.is

UniVision Metaverse（SRA ネットワークシステムサービス第1事業部）

- 通信教育課程に、新しいコミュニケーションプラットフォームを設置
- 新たなキャンパスライフを提供
- 新たなコミュニティの形成が可能
 - 学生：学習意欲の向上
 - 職員：業務効率化など働きやすさ改善

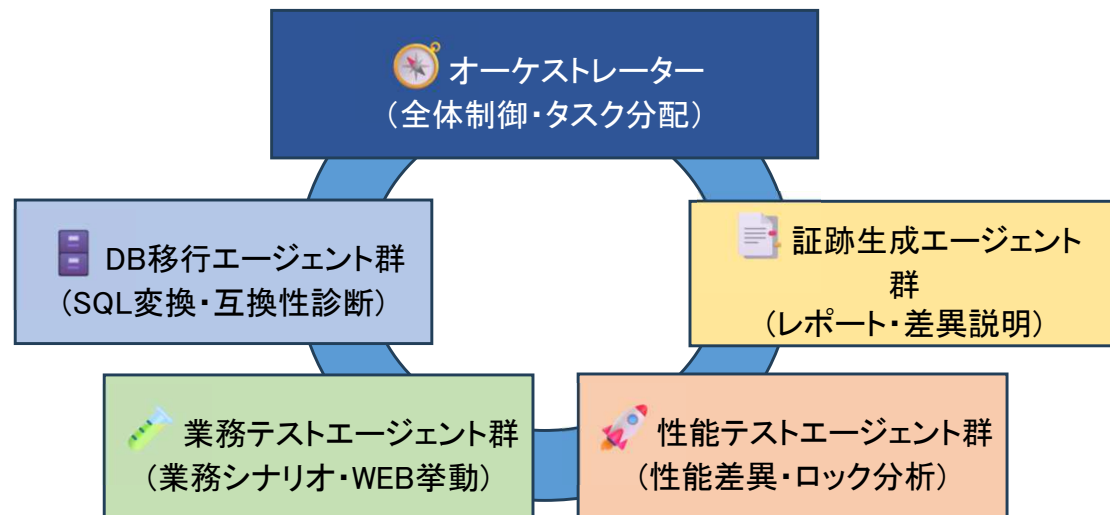
- 大学業務を支え、学生対応を止めない AI Staff Assistant (略称 AI SA)
- 教員の知見をいつでも届ける AI Teaching Assistant (略称 AI TA)



4. 今後の取り組み/SRAグループにおけるAI活用

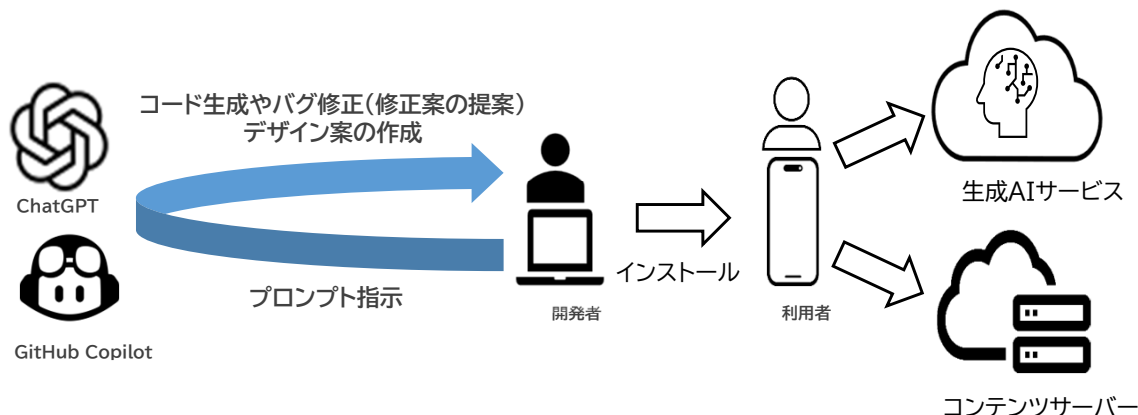
Oracle to PostgreSQLマイグレーションビジネス (SRA 中部事業部)

- OracleからPostgreSQLへの移行を複数のエージェントが協調するマルチエージェントシステムを構築
- 併せて「業務の振る舞い」が同じになることを証明(書)付きで保証するサービス
- これにより、従来は人手で行っていた変換・検証・性能確認・証跡作成を一貫したワークフローとして効率化



生成AIを活用したカラオケスマホアプリ開発 (SRA 中部事業部)

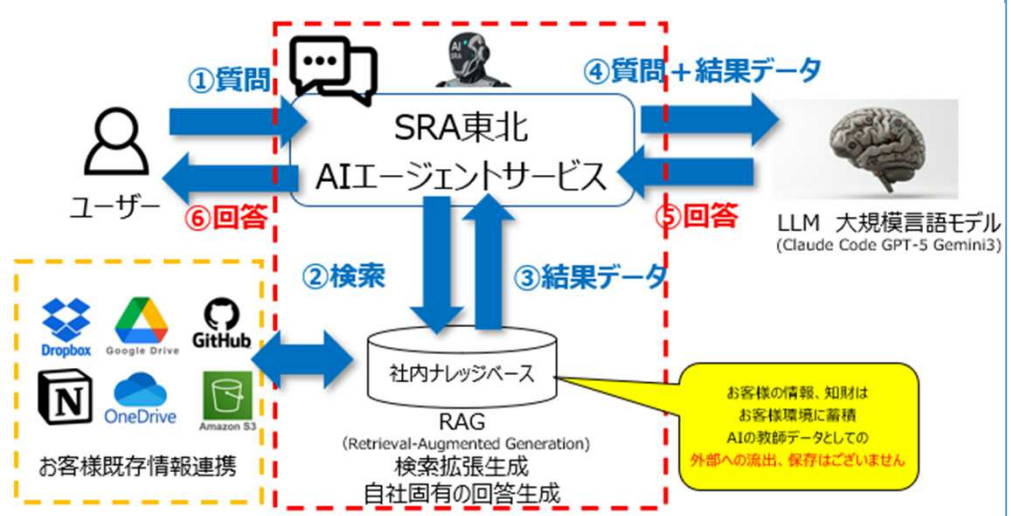
- 「生成AIによるプログラム自動生成」「自動デバッグ、バグ修正」など、生成AIによるコード生成、アプリ開発を効率化
- 「デザインツール+生成AIによるワイヤーフレーム生成」、「生成AIによる配色、フォント選定」によりUIデザインの自動生成



4. 今後の取り組み/SRAグループにおけるAI活用

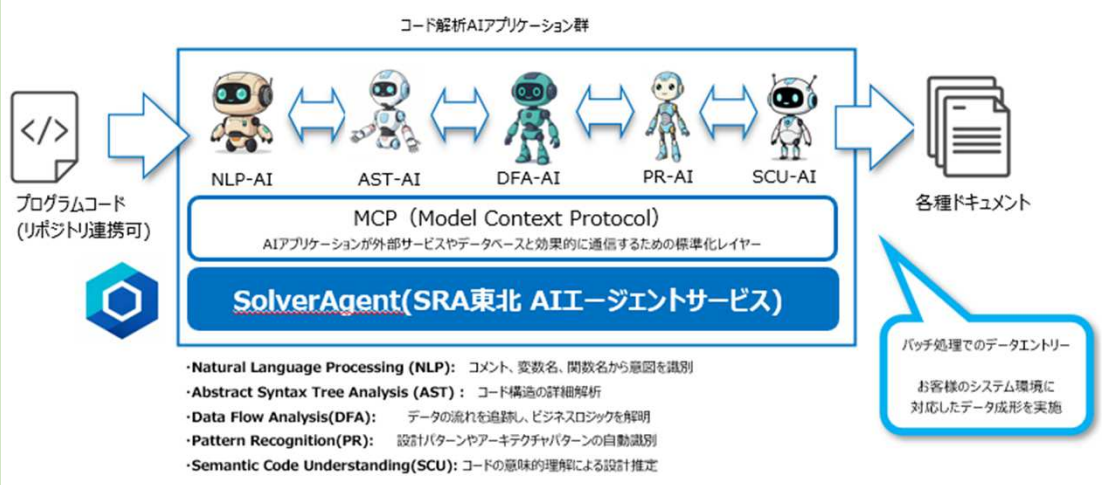
AIエージェントサービス Solver Agent (SRA東北)

- ^{ディファイ} Difyをプラットフォーム基盤としたAIエージェントサービス。お客様の業務フローを「ミニAIアプリ」として個別に設計・提供することで、AIに関する専門知識がなくても、直感的操作でAIエージェントの業務利用が可能
- RAG(検索拡張生成)により社内固有ファイルや各種ドキュメントを参照し高精度の回答が可能
- 他クラウドサービスとの柔軟な連携も可



リバースエンジニアリングサービス (SRA東北)

- 当社独自のリバースエンジニアリング技術に基づくAI分析アプローチ
- 機能に特化したAIエンジン「SystemScope AI」が、互いに連携・協調動作し、単体AIでは成し得ない深度の解析を実現
- マルチエージェント構成で、複雑なシステムやレガシー資産の分析でも、高精度かつ効率的なアウトプットを提供

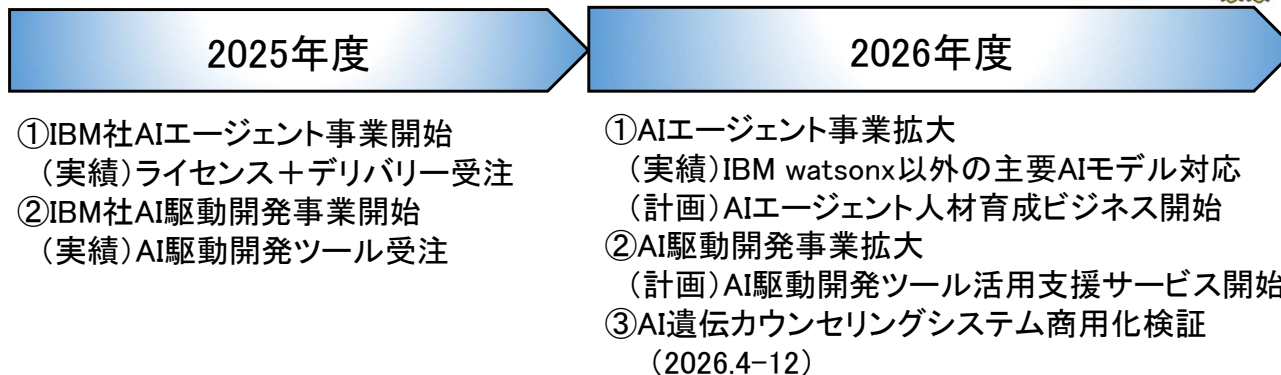
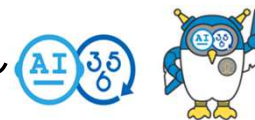


4. 今後の取り組み/SRAグループにおけるAI活用

AIエージェント・AI駆動開発領域のビジネスを拡大（AIT）

- 2025年度はIBMのAIエージェント事業ならびにAI駆動開発事業を開始
- 2026年度はAIエージェント人材育成ビジネスやAI駆動開発ツール活用支援サービスも開始、AI遺伝カウンセリングシステムの商用化を検証

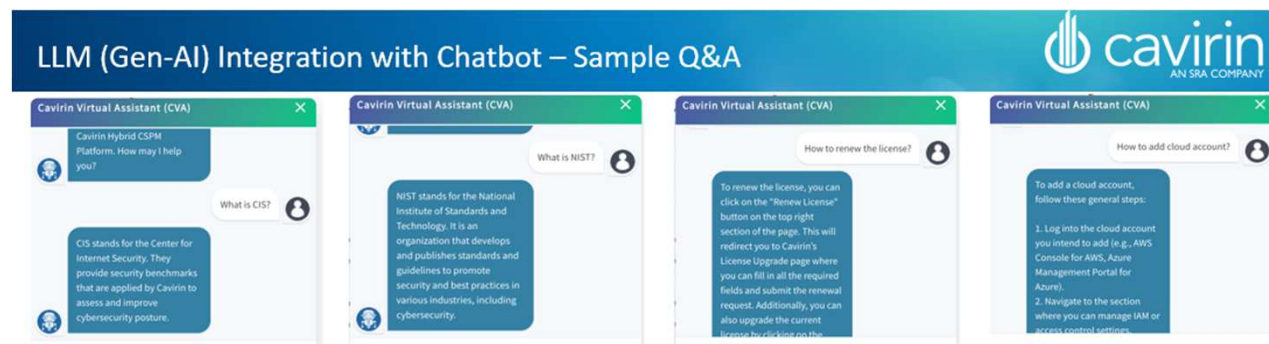
～IBM watsonx Orchestrate & IBM Bob～



AIを活用したセキュリティ対策自動化ツール（Cavirin Systems）

- (予測モデル)機器の「設定状況」をチェックしてスコアを出す際に、AIを用いてプロアクティブにそのスコアの将来予測を実施
- (アドバイス)検出した設定の不備状況から、AIを用いて脅威を予測して改善方法をアドバイス

リアクティブ型 ⇒ プロアクティブ型





4

株主還元

株主還元の実

■ 1株当たり配当金

・2025年3月期: 180円

中間配当金: 80円 + 期末配当金: 100円

(年間配当: 当初計画比20円増配、前年比20円増配)

配当性向 67.3% 配当利回り: 4.1%

・2026年3月期: 200円

中間配当金: 90円 + 期末配当金: 110円

(年間配当: 当初計画比20円増配、前年比20円増配)

配当性向 45.1% 配当利回り: 4.3%

・2027年3月期: 220円 (計画)

中間配当金: 100円 + 期末配当金: 120円

配当性向 50.5%

■ 連結 ROE 10%以上を持続的に確保

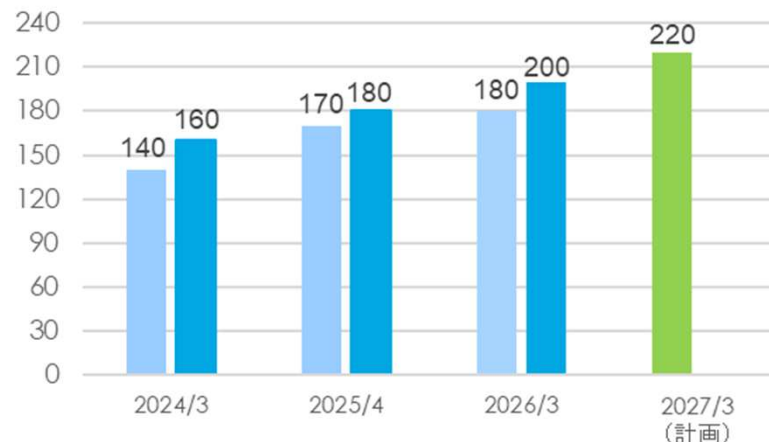
・2026年3月期: 17.4%

・2027年3月期: 16.4%(予想)

1株当たり配当金

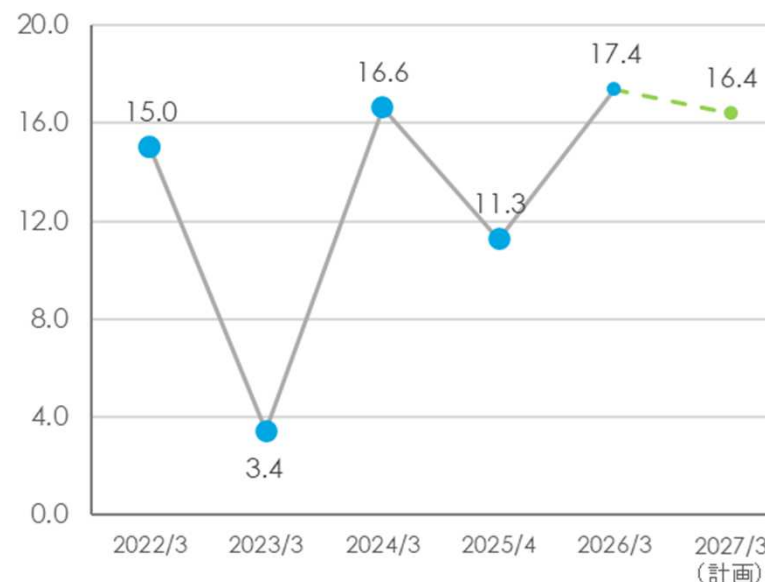
(単位:円)

■ 当初予定配当 ■ 配当(実績) ■ 配当(計画)



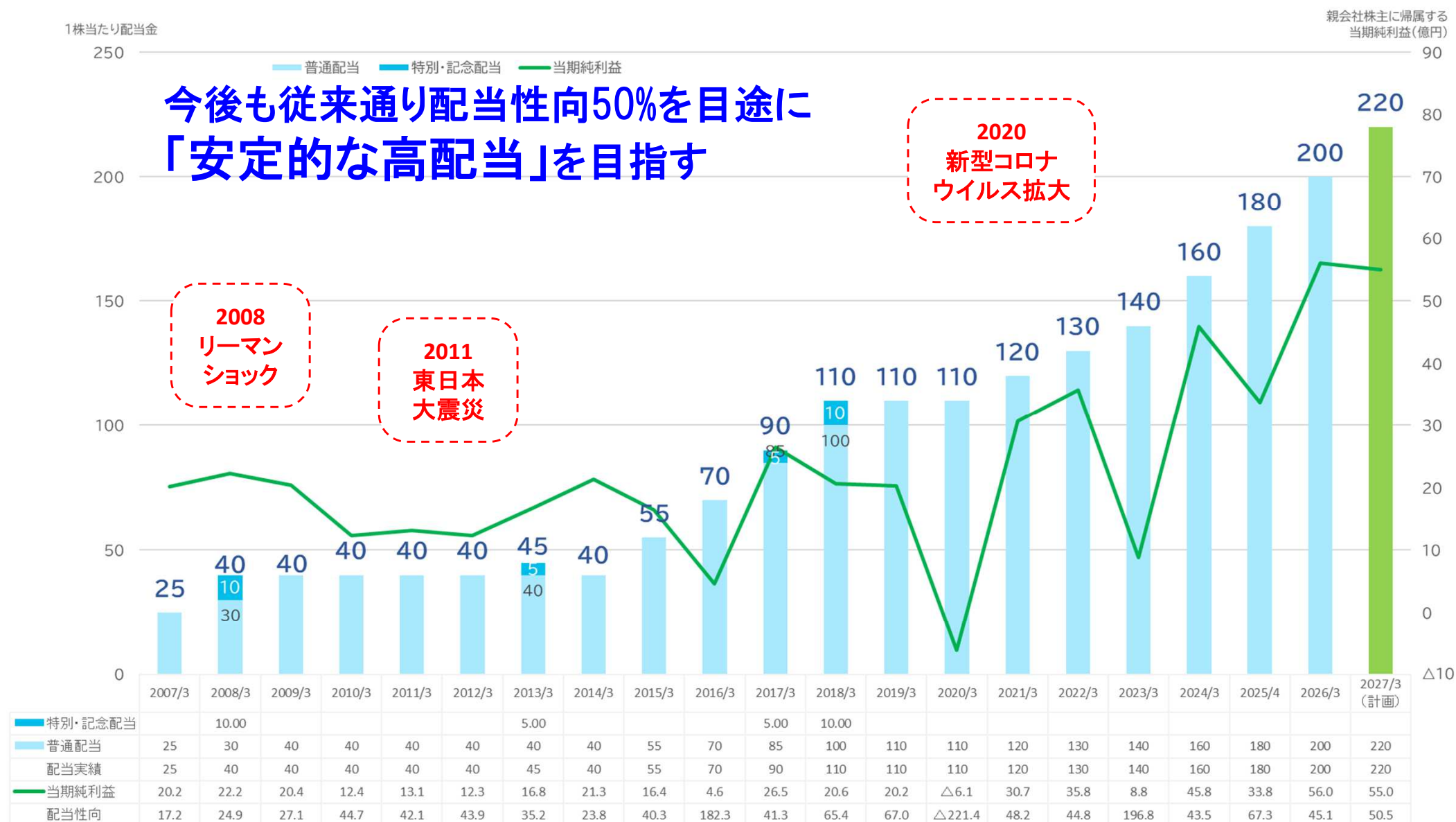
ROE(自己資本当期純利益率)

(単位:%)



参考：配当金の推移

親会社株主に帰属する当期純利益と1株当たり配当金の推移





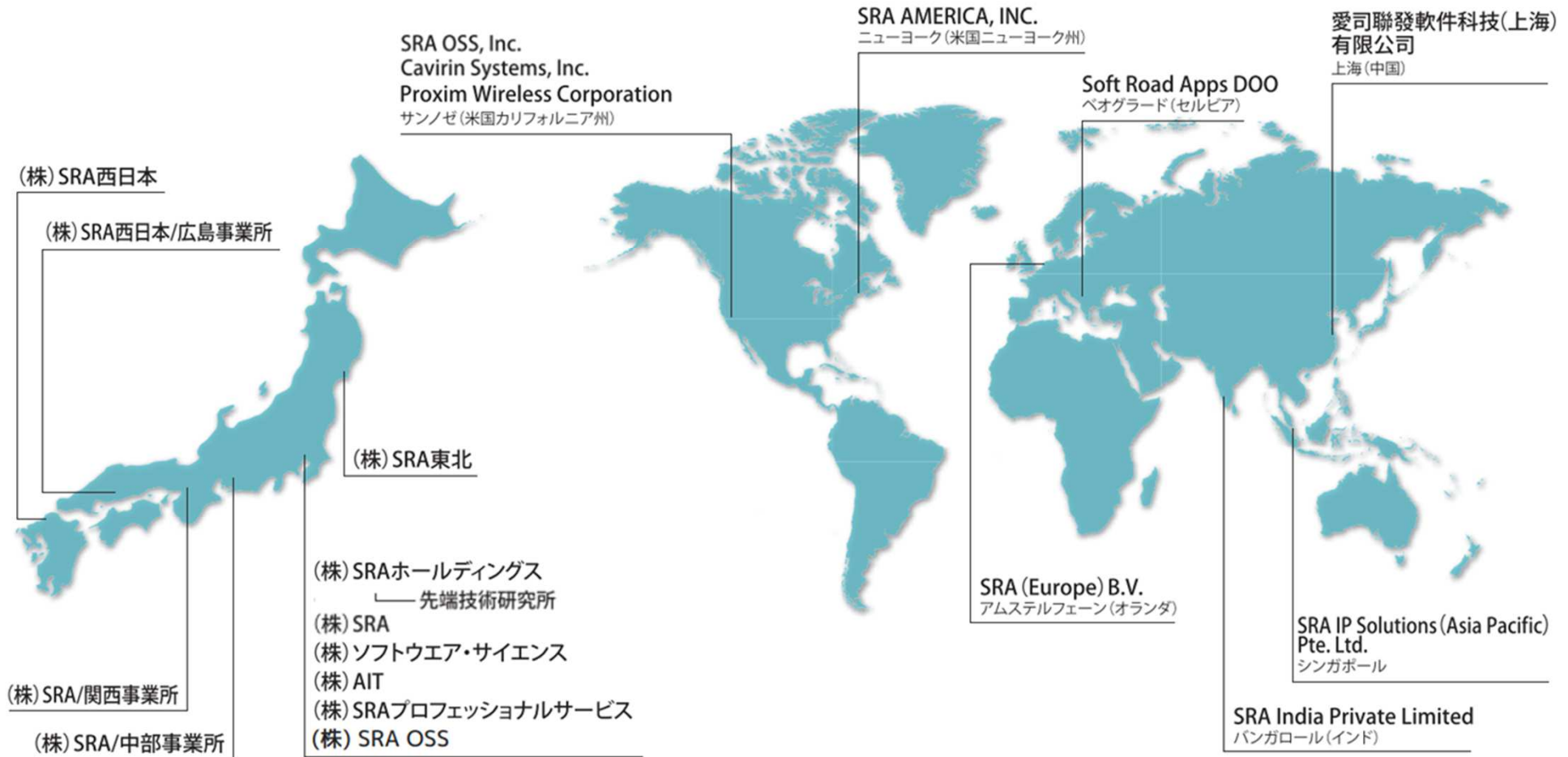
Appendix



「自らの職業的実践を通じ、コンピュータサイエンスの諸分野を発展させ、それによって人類の未来に貢献する」

| | |
|-----------|--|
| 1967年 11月 | 株式会社ソフトウェア・リサーチ・アソシエイツ(現 株式会社SRA) を設立 Software Research Associates, Inc. (SRAの社名由来) |
| 1970年 5月 | 社団法人ソフトウェア産業振興協会 (現 社団法人情報サービス産業協会) 設立に参加 |
| 1980年 10月 | 情報化促進貢献企業として通商産業大臣より表彰される |
| 1984年 11月 | SRA AMERICA, INC.を設立 |
| 1989年 12月 | 株式会社SRA 日本証券業協会に株式を店頭登録 |
| 1998年 1月 | 株式会社SRAが「ISO9001」の認証を取得(ネットワーク構築と運用サービス) |
| 1999年 2月 | 株式会社SRAが「プライバシーマーク」付与の認定を受ける |
| 2000年 11月 | 株式会社SRA 東京証券取引所市場第二部へ株式を上場 |
| 2005年 3月 | 株式会社SRA 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定 |
| 2006年 9月 | 株式交換により株式会社SRAを完全子会社化、 株式会社SRAホールディングスが東京証券取引所市場第一部に上場 |

グループ企業





自社開発(自社IP)製品をはじめ国内外の優れた先進的製品をソリューション/サービスとして提供

【製品名：キャバリン】



<https://www.cavirin.com/>

ハイブリッドクラウド用の包括的コンプライアンス、セキュリティソリューション。DevSecOpsに基づく。データセンターとマルチクラウドに対応し、統一かつ一元的にセキュリティポリシーを適用

【製品名：プロキシム】



<https://www.proxim.com/>

ベル研究所から独立したメンバーが50年前に創業。ワイヤレスデータコミュニケーション分野の最前線で、革新的ソリューション(ITS、監視カメラ/無線通信)を提供

【製品名：ユニビジョン】



<https://www.sra.co.jp/UniVision/>

「学生ポートフォリオシステム」「大学情報データベースシステム」等、ニーズの高い文教システムをWebサービスにより統合した大学事務ソリューション

【製品名：ピーコン】



<https://www.sra.co.jp/p-con/>

既存の紙の書類を「そのまま」デジタル化できるペーパーレスソリューション。電子契約・ワークフローにも対応、コスト削減・業務効率化を実現

【製品名：パワーグレス】



<https://powergres.sraoss.co.jp/>

オープンソースデータベースで実績・定評のある「PostgreSQL」をベースに、データベースの操作ツールやサポートを付属した製品

【製品名：プロジェデポ】



<https://www.sra.co.jp/projdepot/>

ソフトウェア開発現場のニーズから生まれたチーム開発環境。組織においてプロジェクトを一元的に管理し、ソフトウェア資産の安全で効率的なマネジメントを支援

【製品名：メールデポ】



<https://www.sra.co.jp/maildepot/>

Microsoft365、Google Workspaceにも対応するコンプライアンス対策に最適なメールアーカイブ製品。高速検索・大容量対応を実現

【製品名：テストデポ】



<https://www.sra.co.jp/testdepot/>

組込みソフトウェア開発において、従来、人手を掛けて行っていたテスト作業(設定・操作・確認)の自動化支援ツール。実機を含め、統合的でシームレスなテスト環境構築を実現

<将来見通し等に関する注意事項>

本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提としており、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。